

特定非営利活動法人 PI-Forum (ピーアイ・フォーラム)
事業提案書 (特定非営利事業) No1

1. 事業名称

PI-Forum 誌 (仮) 発行事業

2. 提案趣旨

現在、多くの学術誌 (journal) が従来の学術分野に基づくいわゆる縦割りの情報媒体となっており、3つのPIに関心のある研究者や実務家が必要とする分野横断的情報共有媒体が存在しない。PIに焦点を当てた分野横断的媒体が存在しないため、3つのPIに関心のある研究者や実務家も、学術分野ごとに閉ざされた人的ネットワークへと自然と組み込まれてしまう傾向にある。その結果、3つのPIに関心のある研究者や実務家が、分野ごとに独立した人的ネットワークを構築し、さらに自ら孤立化することが危惧される。これは情報共有をその目的として掲げるPI-Forumとして見過ごせない事態である。

3. 事業の目的及び事業計画上の位置づけ

PI-Forum 誌の発行により、学術分野や立場を問わず、マイクロからマクロまで、PI-Forum の定義する3つのPI (public incubation, public initiatives, and public involvement) に関心のある研究者、実務家の理論、言説、仮説などを、テーマを定めた上で収集し、定期的に共有する。

PI-Forum ではこれまで、研究者および実務家による自発的な情報交換を支援するため、ポータルサイトの構築と無償サービス提供を行ってきた。PI-Forum 誌 (仮) の発行は、PI-Forum が能動的に情報を収集、拡散することにより、ポータルサイトを補完する形でさらなる分野横断的情報共有を推進するものである。

4. 事業概要

1) 概要

A. 招待原稿

編集委員が協議の上、毎号5編程度、研究論文あるいは書評の執筆を外部の専門家に依頼する。執筆者の選定に当たっては分野および研究方法論の多様性について特に配慮する。

B. 公募原稿

研究論文および事例情報については公募を行う。公募の方法は以下の通り。

発行5ヶ月前：公募情報の告知 (PI-Forum メルマガ等)

発行3.5ヶ月前：応募締切 (原稿タイトル、発表者名 (連名者名)、梗概)

(*応募多数の場合は採否を編集委員により協議)

発行2ヶ月前：原稿締切

2) 成果物

A. 研究論文

3つのPIに関連する論文(A4版4ページ、2段組)を収録。著作権上の問題が存在しない限りにおいて既存論文の要約も可。特に若手研究者からの積極的な投稿を期待する。

B. 事例情報

PI事例に関する簡潔な実施報告、調査報告(A4版1~2ページ、2段組)を収録。行政及びコンサルタントの現場担当者からの投稿を期待する。

C. 書評

(必要に応じ) 専門家による関連書籍の書評(A4版1ページ、2段組)を掲載する。

D. イベント情報

3つのPIに関連する行事予定について各方面より情報を求め掲載する。またPI-Forum主催イベントの実施報告、また他機関主催のイベントへの参加報告についても適宜掲載する。

3) スケジュール

現時点で公募原稿および広告の出稿数の予測がきわめて難しいことから、今年度は試行段階と位置づける。発行回数については、試行段階であることから抑制しつつ、情報の新鮮さを保つために、年2回(秋、春)の発行とする。

第1号のテーマは「合意形成研究の多様性」とし、招待論文では諸分野の著名研究者に自らの研究成果、方法論などを簡単に紹介してもらおう。

第2号のテーマは「合意形成の方法論とその適用」とし、招待論文では「〇〇手法」のような方法論、合意形成の枠組みについて各手法の著名研究者に論じてもらう。

詳細スケジュールについては次ページ別表参照のこと

5. 実施体制(プロジェクトチーム)

A. スタッフ

後藤 純

東京理科大学大学院理工学研究科建築学専攻 修士1年 都市計画研究室(渡辺俊一)

B. 編集委員

久保 はるか

東京大学大学院法学政治学研究科 日本学術振興会特別研究員(PD)

杉崎 和久

東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻博士課程 都市計画研究室(大方潤一郎・小泉秀樹)

西原 弘

有限会社サステイナブル・デザイン研究所 取締役

松浦 正浩 (編集主幹 兼 プロジェクトリーダー)

マサチューセッツ工科大学都市計画学科 博士課程 環境政策グループ(L. Susskind)

水谷 香織 (PI-Forum 事務調整担当)

岐阜大学産官学融合センター インキュベーション施設ユニット2

6. 予算計画

A. 収入（見込み）

A-1. 広告

1 / 4面 (@30,000 円) × 3件=90,000 円、1 / 2面 (@60,000 円) × 1件=60,000 円
全面 (@120,000 円) × 0件=0 円 計 150,000 円

B. 支出

B-1. 印刷配布

国内の研究者および実務家に無料配布（※広告収入を獲得するという目的もある）。

印刷・製本 (@500 円) × 80部 × 2号=80,000 円

B-2. 補助員

印刷配布、公募原稿整理、編集等（スタッフ後藤氏への依頼を検討）

40,000 円

B-3. ソフトウェア

PDF ファイル作成のため Adobe Acrobat が必要であるが、十分な収入が確保されるまでは、同ソフトウェアをお持ちの方のご好意で PDF ファイルを作成していただく。

0 円

B-4. その他雑費

会議費、PI-Forum 一般管理費等

30,000 円

C. 収支見込

本事業の収入は 150,000 円、支出は 150,000 円を見込んでおり、本事業による利益は見込まない。また、本事業は非営利事業である。なお事業の進展に応じて適宜事業内容を調整し、支出額を調整する。

本年度は試行段階であることから、小規模の事業を想定している。公募原稿の応募状況など様子を見た上で、適宜事業規模の拡大を検討する。

7. 参考資料

別紙 1：2004 年度スケジュール

以上

2004年度スケジュール

		スタッフ	松浦	水谷	久保、杉 崎、西原	依頼原稿 執筆者	一般投稿 者	備考
	4月		企画調整 提案書作成	相談	相談			
2004年度	5月		理事会 広告集め	ML 設置等 理事会 広告集め	広告集め			広告:他理事 もご協力願う
	6月		公募・広報 原稿依頼	口コミ広報 原稿依頼	口コミ広報 原稿依頼	執筆	応募	
	7月	応募整理	公募締切 採否検討※	採否検討※	採否検討※	執筆		※一般投稿 多数の場合
	8月					執筆	執筆	
	9月		原稿集め	原稿集め	原稿集め			
	10月	編集	予算再検討	相談	相談			
	11月	印刷配布	発行					
	12月		公募・広報 原稿依頼	原稿依頼	原稿依頼	執筆	応募	
	1月	応募整理	公募締切 採否検討※	採否検討※	採否検討※	執筆		※一般投稿 多数の場合
	2月					執筆	執筆	
	3月		原稿集め 原稿締切	原稿集め	原稿集め			
	4月	編集						
	5月	印刷配布	発行					
				理事会				

特定非営利活動法人 PI-Forum（ピーアイ・フォーラム）
事業提案書（特定非営利事業）No2

1. 事業名称

「中部地域におけるワークショップ等の開催事業」

2. 事業の目的

中部地域において、様々な分野の専門家のネットワーキングを図る（広報啓発）とともに、合意形成技術に関する知見を得る（研究開発）ことを目的とする。

3. 事業概要

1) 概要

基本的には、これまで行ってきた異分野PI交流ワークショップの中部版として、多様な合意形成や市民発議に関わる事例、技術等を広く学び合う機会、合意形成や市民発議の知恵づくりに関係・隣接する知見領域に関する学習の場の提供を想定しつつ、主体的参画会員や社会関心ニーズ、オリジナル性等を勘案し、具体化し、推進していく。同時に、P I - F o r u m（団体）および会員・参加者各自のネットワーキングの拡大・深化に寄与する機会とし、年間4回程度（以上）の実施を予定する。

2) 成果物

実施の概要と質疑応答を毎回 A4 紙数枚程度に整理しコンテンツを作成するとともに、メルマガでの報告、ホームページ上での公開を行う。

3) スケジュール

平成16年8月～17年4月まで

4. 実施体制（案）

1) プロジェクトリーダー：水谷香織

2) 事業推進チーム：水谷香織、中部地域のコンサルタント勤務の方 数名

5. 予算計画

最低限実施想定ワークショップ（4回）を前提とし、収支予算として、年度収支差額 10 万円の範囲を上限として計画・推進していく。

項目	単価	回数	小計	計
事業収入				
ワークショップ事業収入	¥30,000	4	¥120,000	
収入合計				¥120,000
事業支出				
ワークショップ(小計)				¥110,000
講師謝金・交通費	¥12,000	4	¥48,000	
募集管理事務運営	¥5,000	4	¥20,000	
消耗品購入費	¥5,500	4	¥22,000	
スタッフ交通費	¥5,000	4	¥20,000	
予備費				¥10,000
支出合計				¥120,000
収支差額				¥0

6. その他考慮事項

- 1) PI-Forum の活動を、名古屋、岐阜を中心とした中部地域へ拡大し、新たな人的ネットワークを構築する。このとき、中部地域での活動を盛り上げるため、（調整が可能であれば）他地域の理事もワークショップ等にご参加いただきたい。
- 2) 中部地域の大学、行政機関、学会、企業等の協力し、PI に関するイベント等を順次計画、実行していく予定である。

特定非営利活動法人 PI-Forum (ピーアイ・フォーラム)
事業提案書 (特定非営利事業) No3

1. 事業名称

ホームページ、メールマガジン、会員メールリングリスト業務改善

2. 提案趣旨

PI-Forum の情報交換手段である標記事業について、その運営体制を改善するものである。

3. 事業の目的及び事業計画上の位置づけ

ホームページ <http://www.pi-forum.org/> とメールマガジンおよびメールリングリストは PI-Forum からの主要な情報交換手段である。本事業では引き続き、より効果的・効率的な運用を行うことを目的とする。今年度の目標として、管理の手間を軽減することを目指す。

4. 事業概要

3) 概 要

- ① ホームページのコンテンツの分散管理を進め、各担当が更新できるようにする。
- ② ポータルの更新情報をメルマガ登録、会員 ML 登録に反映する仕組みの改善を行う。

4) 成果物

- ① ホームページ・メールマガジン・メールリングリストの円滑な運用

5) スケジュール

- ① ～ 9月：作業フローの検討
- ② ～ 12月：管理機能の手直し
- ③ ～ 4月：作業移行

5. 実施体制

1) プロジェクトリーダー：菊池豊

2) プロジェクトチーム

- ・ 作業フロー検討：菊池豊、事務局
- ・ ページデザイン指針、HP コンテンツ管理についてのアドバイス：松浦正浩
- ・ ポータル連携についてのアドバイス：田熊伸好

6. 予算計画

事業収入 0円
事業支出 0円
収支差額 0円

7. 参考資料

特になし

8. その他考慮事項

本事業では、管理コストの軽減を目指す。ホームページ、メルマガ、会員メーリングリストなどのコンテンツ自体の充実については、本事業の直接の目的ではない。これは、各事業や活動により直接に行われるものであり、本事業はそれを間接的に支援するという位置づけである。

以上

特定非営利活動法人 P I - F o r u m (ピーアイ・フォーラム)
事業提案書 (特定非営利事業) No4

1. 事業名称

「メーリングリストによる会員サービス事業」

2. 提案趣旨

既存の会員メーリングリストの活性化を目的に、

3. 事業の目的及び事業計画上の位置づけ

本事業では、P I - F o r u mからの会員へ提供する情報の量を増やすだけでなく、会員メーリングリストを会員同士の情報共有・意見交換・問合せの場と捉え、会員サービスの一環としてメーリングリストの活性化を目的におこなうものである。

4. 事業概要

1) 概要

P I - F o r u mの掲げる3つのP Iについて、会員が持つナレッジ (情報、知識、ノウハウ等) を相互に活用し、日常的にそれぞれの活動に役立てていけるよう、メーリングリストを媒体としたコミュニティの形成と会員の相互交流を支援する。

① 既存の会員メーリングリストによるサービスの実施

- ✓ P Iに関わる実践者・研究者・学生に有益な情報の提供と共有
 - ・ P I - F o r u m異分野交流ワークショップのご案内と報告
 - ・ その他P Iに関わるフォーラム、セミナー、学会、書籍等のご案内
 - ・ P Iに関わる手法・アイデア・事例等の情報提供
 - ・ 会員の活動のご紹介
- ✓ 上記をきっかけとしたディスカッションの喚起、会員の相互交流・コミュニティ形成支援

② 議論活性化のためのシスオペの設置

③ 会員に対するインタビューの実施

P I - Y o u t hが会員を訪問し、インタビューを実施。メーリングリストより「会員の活動のご紹介」として発信する。

2) 成果物

会員インタビューの記録

3) スケジュール

		2004年						2005年		
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
内容の検討と準備		シスオベ担当者検討 → シスオベの設置 ↓ サービス内容の検討 → 新サービス開始 ↓								
サービスの 実施	セミナー・ 学会・書籍 等の紹介	→ 随時 →								
	手法・アイ ディア・事例 の紹介	→ 随時 →								
	議論喚起・ 相互交流 支援	→ 随時 →								
	会員の活 動紹介		▼		▼		▼		▼	
会員インタビュー			→		→		→		→	

5. 実施体制

- 1) プロジェクトリーダー：今井路子、水谷香織
- 2) プロジェクトチーム：P I - F o r u mの若手会員

6. 予算計画

事業収入：0円

事業支出：20万円

※会員インタビュー交通費 (@20,000円) X (2名) X (5回) = 200,000円

収支差額：-20万円

7. 参考資料

なし

8. その他考慮事項

なし

以上

特定非営利活動法人 PI-Forum（ピーアイ・フォーラム）
事業提案書（特定非営利事業）No5

1. 事業名称

「PI ポータル活性化事業」

2. 提案趣旨

昨年度より運営を開始したインターネット上の PI ポータルサイトの会員数、アクセス数、および利用度などが低いという事実を踏まえて、今年度これを改善し、本来目指した PI に関するバーチャルな情報交換の場としての活性化を図る

3. 事業の目的及び事業計画上の位置づけ

PI-Forumが本事業を行う目的は、インターネットを活用する事により、物理的に離れた場所にいる全国の PI に従事している人々、PI に関心のある人々たちの情報交換、情報交流を促すことであり、それによって PI 全体のマーケット創出し、社会的な知名度を高める事である。

本事業は、平成15年度に行った PI ポータル運営事業の継続事業としても位置づけられるものであり、平成15年度に認識された以下の課題に対してその解決を図ることを平成16年度事業の目的とする。

- ユーザーインターフェースがわかりづらい
- コンテンツの品質、量また新鮮度が不足している
- ポータル管理の問題
- PI フォーラム HP と PI ポータルサイトの関連が不明瞭

4. 事業概要

1) 概要

平成15年度に認識された PI ポータルに関する上記の課題に対してその解決を図る。具体的には次のような取り組みを行う。

- ユーザーインターフェースの改善
- リアルな事業、特にワークショップと連携したコンテンツの拡充
- PI ポータル管理の効率化
- PI ポータルのミッションの再検討

2) 成果物

ー改善されたユーザーインターフェース（HP）

- ・ プロトタイプ版の開発。
- ・ 実装については開発者のシティネットと一部協議。

ーリアルな事業と連携したイベント情報、BBS、文献情報、事例情報の追加コンテンツ

- ・ リアルな事業におけるイベント告知、事前 BBS 開設。
 - ・ リアルな事業で作成したマテリアル、ビデオ等の事後登録。
- －PI ポータルサイトの新たな管理方針
- ・ 菊池理事を中心とした管理体制
 - ・ 事務管理は一部アウトソーシング
- －PI ポータルの新ミッション
- ・ PI フォーラム理事、会員からの意見聴衆
 - ・ 平成17年度以降の運営方針も含めての PI ポータルの今後の検討方針討議
 - ・ PI ポータルの紹介／わかりやすいガイドブック

3) スケジュール

- －ユーザーインターフェースの改修は年内目標
- －コンテンツ拡充についてはリアル事業に合わせて決定、特にワークショップのスケジュールに合わせる
- －PI ポータルサイトの管理については早期に管理体制を確立させる
- －PI ポータルのミッションに関する討議は2ヶ月に一度程度開催予定

5. 実施体制

- 1) プロジェクトリーダー（全体）：田熊 伸好
- 2) プロジェクトリーダー（個別）：田熊伸好（コンテンツ、ミッション）、菊池豊（管理、ミッション）、松浦 正浩（ユーザーインターフェース）
- 3) プロジェクトチーム
 - ・ PI ポータルコンテンツ企画チーム：田熊伸好（理事）、会員からの選抜
 - ・ PI ポータル管理チーム：菊池豊（理事）、水谷香織（仮理事）、吉井さん他
 - ・ PI ポータルユーザーインターフェース改善チーム：松浦正浩（理事）、菊池豊（理事）、シティネット片岡さん他

6. 予算計画

事業収入：なし

事業支出：

- ・ PI ポータルコンテンツ企画チームにおける経費&アルバイト20万円
- ・ PI ポータル運用管理費20万円

収支差額：マイナス40万

7. 参考資料

特になし

8. その他考慮事項

- 1) PI ポータルコンテンツ企画についてはワークショップとの連携を密にする。
- 2) PI ポータル管理についてはPI フォーラム全体の事務局と連携する。
- 3) PI ポータルユーザーインターフェース改善については現 PI ポータルデータベースを有効活用した形でインターフェース部分を改善する方法を検討する。

以上

特定非営利活動法人 PI-Forum（ピーアイ・フォーラム）理事会
事業提案書（特定非営利事業）No6

1. 事業名称

「P I 指針雛形提示事業」

2. 提案趣旨

多くの自治体で作成の動きのあるPI指針の雛形あるいは基本的要件をPI-Forumとして作成し、自治体ほか市民等に公開し、参照可能とすることで、自治体での指針作りを促進し、質的にも水準向上を目的とする。また、PI指針の作成の過程で、P I 事例に関する経験交流を促進する。

3. 事業の目的及び事業計画上の位置づけ

P I 指針の構築はP I フォーラムにとっての基幹的目標の1つである。また、これらの作業は、これまでのP I 事例・評価研究を基礎としたものである。

4. 事業概要

PI 指針を作成し、自治体ほか市民等に公開する。この指針は、①PI-Forum が行政側、市民側のどちらにも寄らない立場から提案するもの、②PIに関する先端理論、論拠、専門家意見、指針への適用のポイントを紹介するもの、③自治体（や受託業者）が指針を作成する際に参照情報となるもの、④市民が自治体のPI度を測る尺度となるもの、を目指す。提案の対象者は、①全国の自治体（都道府県、市町村）、②市民、企業、団体（ステークホルダーになりうる主体）、③指針づくりに関わるコンサル、等を想定している。期待するアウトカムは、①PI指針の普及と質的向上により市民参加機会が増大すること、②その結果、よりよい公共政策が策定される機会となること、③また、よりよいプロセスで公共政策が策定されることになること、である。なお、プロジェクトの実施に際しては、①早い時期から提案を開始し、作成過程も見せること、②フィードバックを得るプロセス（自治体、学識者、他ステークホルダー）を設計すること、③エッセンスを重視した内容（柔軟性、適用性のため）とすることに心がける。また、作成過程においては、これまでの事例・評価研究を基礎とするとともに、更なる事例経験交換を促進する。

5. 実施体制

- 1) プロジェクトリーダー：城山英明（副理事長）
- 2) 実施責任者：城山英明、矢嶋宏光
- 3) 運営支援：外部契約支援者（横手典子）
- 4) 自治体連携支援：石川雄章

6. 予算計画

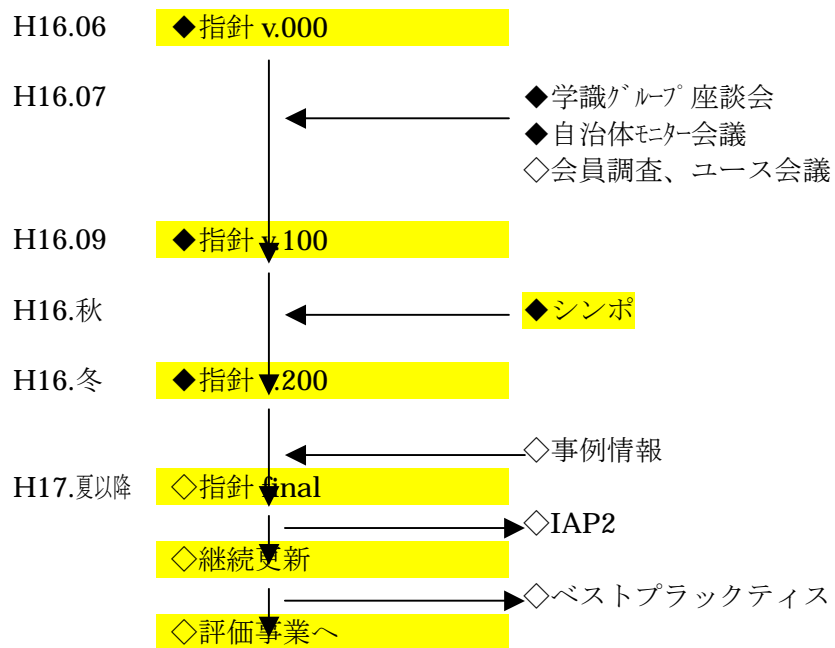
事業収入：250,000円

事業支出：500,000円

収支差額：-250,000円

<参考>

◆作業フロー（案）



- ・ 骨子
 - ・ 解説（「これを行わなかったらどうなるか」含む）
 - ・ 根拠データ（関連する事例、論文 等）
- ・ 学識コメント（評）

1. 位置づけ

- ・ 指針雛形の目的／背景／位置づけ <<エッセンス
- ・ 公開方法
- ・ 作成プロセス／作成メンバー

2. PI 指針のポイント

1) 「理念」において重視すべきこと

● 「説得」ではなく「参加」を目指す

→説得型では結局反発を受ける（PA の歴史が証明）

→協働の精神が重要

● 「痛み分け」ではなく「Win-Win」を目指す

→今あるパイをどう分けるか、と発想するからパイの取り合いになる

→どうしたらパイが増え、全ての関係者の満足度を UP させられるか、を考える

● 「紛争解決」ではなく「紛争予防」を目指す

→紛争状態になってからコトを起こそうとするから大変になる

→紛争になる前に、如何に紛争の芽をつみ取っておくか、に力点を置く

● 「アウトプット」ではなく「アウトカム」を重視する

→アウトプットを目指すだけでは、ある値に達するだけで本来的な目的・意義が達成されない恐れがある

→これをやった結果、どんな成果が期待できるか／どんな満足が得られるか、を考える

● 「行政内部のため」ではなく「市民のため」に作成する

→ユーザーである市民のためにつくることが、ひいては行政を行いやすくすることになる

→指針をつくったこと自体が評価される

→繕っても市民は敏感に察知する

2) 「対象範囲」において重視すべきこと

● ステークホルダーを正確に把握する（PI に参加すべき関係者を調査・把握）

● ステークホルダーの性質（属性）と参加の形態を適切に組み合わせる

● 対象案件を狭めない（柔軟に対応できるように）

3) 「プロセス」において重視すべきこと

- 決める前に参加機会を設ける
- 参加を前提とした計画手続を用意する
- 全ての関係者（行政内部含め）が納得できる進め方を考える
- 参加の受け皿を予め用意する（意見もらって宙ぶらりんが一番マズイ）
- ：目的指向型／問題解決型のアプローチを行う
- ：比較考量原則に則る（政策・計画の妥当性を立証）～聞いたことを反映
- 先にプロセス（参加／計画手続含め）を約束する
- 信頼構築
- 時間管理（約束することで、逆にコントロールが可能になる）
- 参加方法へのニーズの反映（P I の P I）
- プロセスは段階を区切って進める
- 問題を切り分けて対応できる
- 後戻り防止

4) 「コミュニケーション（手法）」において重視すべきこと

- こちらから「聴きに」行く
- 表明された意見ではなく、意見の裏にあるニーズ（インタレスト）を探る
- インタレストには、プロセス上の利害関心／実質の利害関心／心理的な利害関心があることを理解し、意識的に分別して対応する
- プロセスの段階／対象者の属性／把握したいニーズ等に応じて適切な「場」を設定する
- 応用の利くツールブックを別途用意し公開しておく

5) 「体制」において重視すべきこと

- 意志決定／計画技術検討／プロセス管理／市民意見収集等、役割ごとに体制を分ける
- 庁内の協働の枠組みをつくる
- 行政間の協働の枠組みをつくる（パートナーリング）

3. 自治体における指針づくりのポイント

- 「流行り」でつukらない
- つくっただけで形骸化すると、逆に行政不信を招く
- 自分の自治体で本当に必要とされるのか、指針を作成して何を達成しようとしているのか（目的・位置づけ）を精査し、本当に意義がある場合のみ作成する
- 理念系をキチンと押さえる（手続についてはオマケ的なもので可）
- 手続論に走ると形骸化する
- 庁内の協働で
- 庁内全体での取り組みが重要（一つの部署ではPIの実務がまわらない）

→庁内で、参加を行わない場合の問題認識と PI の原理を共有化しておく必要あり

- 指針の意志決定者／オーソライズ手続を明確にする
- 条例化の意義
- 参加型でつくる（作成過程の公表／市民へのフィードバック）

4. Q&A（良くある質問への答え）

5. 用語集

特定非営利活動法人 PI-Forum (ピーアイ・フォーラム)
事業提案書 (特定非営利事業) No7

1. 事業名称

韓日比米・合意形成に関するネットワークづくりへの参加事業

2. 提案趣旨

韓国、日本、そしてフィリピンではさまざまな公共紛争を処理するための合意形成プロセスの適用に関心が高まっている。各国の専門家の一部は米国の合意形成研究所と共同して検討を進めている。しかし、合意形成手法をある国から他の国へと単純にコピーすることは極めて危険である。各国は合意形成の伝統を抱えており、合意形成の新たな方法論はその伝統に基づかなければならない。

これまで合意形成プロセスは各国別々に検討されてきた。しかしこれらの研究者がアジアにおける人的ネットワークを形成することにより、アジアにおける合意形成プロセスのあるべき姿について共同研究することが望ましいと考えられる。

3. 事業の目的及び事業計画上の位置づけ

現在、韓国 KDI 公共政策経営大学院が中心となり、このアジア・ネットワークの形成を推進しようとしており、PI-Forum も日本代表としてこのネットワークづくりに参加する。これは PI-Forum が目指す人的ネットワーク構築の目標に合致する。

4. 事業概要

(※本事業は韓国 K D I が 2 0 0 4 年 5 月にトヨタ財団に提出した助成申請が認可された場合、韓国 K D I との協力により実施する。)

ワークショップ、インターネット上の議論、そして共同作業による文書化により、アジアのさまざまな地域で合意形成プロセスの利用可能性の検討に興味のある専門家及び研究者のネットワークを形成する。

A. K D I 主催のワークショップへの参加

韓国において 2 0 0 5 年 1 月に予定されているワークショップ会合に上記研究者 3 名が参加。同ワークショップにおいて日本の合意形成の現状等について発表。

B. オンラインディスカッションへの参加

インターネット上に別途用意されるウェブサイトにおいて合意形成手法等について議論。上記研究者 2 名を中心に議論に参加 (基本的に誰もが参加できるサイトとなる予定)。また各研究者は議論の活性化を目的に日本における新たな合意形成の取組みについて事例研究ペーパーをネット上に発表。

C. ビデオ会議

2005年10月に韓日比米の研究者がビデオ会議により、アジア地域における合意形成専門家のネットワーク化に向けた1年間の成果について振り返る。

5. 実施体制

本事業は基本的に城山英明、山中英生の各研究者が韓国 KDI（ネットワークのとりまとめ事務局）との調整により遂行する。また、松浦正浩が研究および事務等の調整を担当する。

1) プロジェクトリーダー

松浦正浩（理事、MIT）、城山英明（理事、東京大学法学部助教授）

2) プロジェクトチーム

城山英明（理事、東京大学法学部助教授）

山中英生（会員、徳島大学工学部教授）

※アジア・ネットワークづくりには韓国KDI 公共政策経営大学院を中心に、PI-Forum、アジア財団（フィリピン：MedNet）、米国合意形成研究所が主体的に参加する。

6. 予算計画

収入：

約140万円（助成分担金、韓国KDIと要調整）

支出：

約140万円

（内訳）

ワークショップ発表に向けた事前調査・準備（直接経費および人件費）：55万円

ワークショップ参加費（交通費等）：40万円

オンラインディスカッション用事例調査の準備（直接経費および人件費）：30万円

ビデオ会議レンタル費用：15万円

以上

特定非営利活動法人 PI-Forum（ピーアイ・フォーラム）
事業提案書（特定非営利事業）No8

1. 事業名称

「コンセンサス・ビルディング研修事業（仮称）」

2. 提案趣旨

土木学会四国支部との共催事業として、コンセンサス・ビルディング手法に関する研修を行うとともに、日本の現場への適応可能性と地方における事業成立の可能性を検討するものである。

3. 事業の目的及び事業計画上の位置づけ

PI-Forumが本事業を行う目的は、コンセンサス・ビルディング手法に関する研修事業を四国地域で行うことにより、これらの専門家及び興味を有する人的なネットワークと会員の拡大を図る（広報啓発）とともに、合意形成技術に関する知見を得る（研究開発）、また、地域における研修事業の可能性を探ることである。

本事業は、平成15年度に行った支援事業の継続事業として位置づけられるものである。

4. 事業概要

1) 概要

土木学会四国支部とPI-Forumの共催により、PIに関する教育プログラム研究計画（平成14～16年度：予定）の一環として、「コンセンサス・ビルディング研修事業（仮称）」を開催する。本事業では、コンセンサス・ビルディングに関する手法を研修を通じて学ぶとともに、その結果を実際の現場に適用し日本への適用可能性と地方における事業成立の可能性を確認するものである。

PI-Forumは、本事業に関する企画立案、研修事業の運営、体験記録、ビデオクリップの作成等の運営を行う。本研修事業の取組を通じて、PI-Forum四国メンバーの拡大を図る。また、運営あたって地元のNPO法人の協力を得る。

2) 成果物

ーコンセンサス・ビルディング研修資料及び研修結果報告

- ・ コンセンサス・ビルディング研修の体験概要をA4版数枚程度に整理する。
- ・ 体験概要をPI-Forumのメルマガ等で配信するとともに、HPで紹介する。

ーコンセンサス・ビルディング試行結果報告書

- ・ 研修で学んだ方法を実際の現場に試行した結果を整理する。
- ・ この際、日本での改善方法等の提案を行う。

ーコンセンサス・ビルディング研修のビデオクリップ作成

- ・ 研修の体験をデジタルビデオで収録し、適当な時間に編集する。
- ・ インターネット上で配信可能な電子ファイルに変換しHPで提供する。

3) スケジュール

- 研修は、平成16年8月26日～28日(2.5日)。現場の試行は未定。
- 研修体験開催後1ヶ月間程度で、速報(体験概要)のメルマガ配信
- ビデオクリップのHPへの掲載は、年度内に。

5. 実施体制

1) プロジェクトリーダー：石川雄章(理事)

2) プロジェクトチーム

- ・ 研修企画実施責任者：松浦正浩(理事)
- ・ 土木学会窓口責任者：山中英生(徳島大学教授)
- ・ プロジェクト推進事務局：吉井、小松(88フォーラム)
- ・ 体験記録作成：未定(今後募集予定)
- ・ ビデオ撮影・編集：北福隆文(株SPC)
- ・ 企画協力支援予定者：澤田俊明((有)環境とまちづくり)、玉井道雄(株SPC)
- ・ 現場運営協力者：土木学会関係者(今後調整)

6. 予算計画

事業収入：170万円

(土木学会研修受託：120万円、参加費+資料費：50万円)

事業支出：160万円

収支差額：10万円

予算額については、土木学会四国支部との調整が必要であり、変更の可能性はある。

研修期間(2.5日)によって、予算額は変化する。

7. 参考資料

具体的な研修内容については、松浦氏作成企画書(別途)を参考

8. その他考慮事項

- 1) 体験記録等については、PI-Forumのメルマガを活用して配信する。
- 2) 体験記録、ビデオクリップについては、PI-Forumのホームページに掲載する。
- 3) サスカインド氏のセミナーをより現場に近い内容としたものを想定。

以上

特定非営利活動法人 PI-Forum（ピーアイ・フォーラム）
事業提案書（特定非営利事業）No9

1. 事業名称

「FY-H16 PI研修見本市事業（仮称）」

2. 提案趣旨

現在国内で実施されているパブリック・インボルブメントに関連した実務者研修から、複数の研修（各一部分）を一定期間に集中的に実施することにより、各種の研修機会を創造するとともに、研修プログラムの存在を社会に知らせ、PIやその方法論の普及を促進する事業として提案する。

3. 事業の目的及び事業計画上の位置づけ

PI-Forumが本事業を行う目的は、研修プログラムの存在を広く知らせ、これらに関心を持つ専門家や実務家の人的ネットワークを拡大（広報啓発）するとともに、実務家の研修を通して現場でのPI実施を支援（現場支援）することである。また、これら研修プログラムの広報として、プログラム供給市場を支援（現場支援）する側面も目的となる。

なお、PI-Forumの経営資源の確保につながる事業として、次年度以降においても継続的に実施が可能。

4. 事業概要

1) 概要

研修プログラムの提供者とPI-Forumの共催により、PI実務者研修を一定の期間（1～数日）に集中的に開催する。研修提供者として、公共事業のPIに関する研修、ワークショップ等におけるファシリテーションに関する研修、紛争解決手法に関する研修、グループコミュニケーションによる問題解決手法に関する研修などをターゲットとし、各研修のエッセンスや内容の一部分を紹介する。受講者は広く全国から募集し、希望するプログラムを一部または全部研修できるものとし、その収益の一部はPI-forumに還元する。また、運営あたっては民間法人の協力を得る。

2) 成果物

－研修の実施

－関連資料（テキスト等）

－参加者リストおよびアンケート

- ・アンケートでは、参加者の関心や指向性を把握するとともに、参加者が関わるPI等の実施状況について把握する。

－実施報告書

- ・実施報告書は、概要をメルマガおよびWEBSITEに、また、詳細をポータル（メンバーのみ）に掲載する。

3) スケジュール

- 研修は、平成16年秋季を想定。実施期間、実施場所は未定。
- 研修開催後1ヶ月間程度で、概要をメルマガ配信およびWEBに掲載。
- 詳細報告のWEBへの掲載は、年度内に。

5. 実施体制

1) プロジェクトリーダー：矢嶋宏光（理事）

2) プロジェクトチーム

- ・ 企画責任者：矢嶋宏光（理事）
- ・ 研修実施者：未定（4社程度を想定）
- ・ 企画実施協力支援予定者：横手典子（(株)都市計画設計研究所）
- ・ 現場運営協力者：未定
- ・ WEB、メルマガ、ポータル掲載協力者：未定
- ・ 募集責任者：未定
- ・ 会場提供者：未定

6. 予算計画

事業収入：200万円（予想）

（参加費：平均1.5コマ×100人×1.5万円/コマ・人＝225万円）

事業支出：100万円（予想）

（会場費：20万円、謝礼：30万円、実施協力費：50万円）

収支差額：100万円（予想）

7. 参考資料

なし

8. その他考慮事項

なし

以上